

# 盛岡市営合葬墓の整備を求める請願書

紹介議員

社子春 治  
鈴木 俊 祐

請願第 12 号



令和4年9月7日

盛岡市議会

議長 竹田 浩久 様

盛岡市本町通2丁目8-32

盛岡生活と健康を守る会

会長 村山 繁



盛岡市本町通2丁目1-36 浅沼ビル6F

盛岡地域社会保障推進協議会

会長代行 佐々木 敏幸



## 盛岡市営合葬墓の整備を求める請願

### 【請願の趣旨】

近年、少子高齢化がますます進行し、平成17年に初めて死亡者数が出生数を上回り、死亡者数の増加に伴うお墓の需要の増加が見込まれる一方、お墓が高くて入れない、あるいはお墓の継承者がいない、などという問題が深刻化しつつあります。

高度経済成長期以降の核家族化に加え、非婚化、離婚率の上昇等により家族形態は多様化し、お墓を代々継承していくことが当然であるといった価値観・文化は崩れ始めています。このように、家族による継承を前提とした墓制度の維持が困難になってきているなか、家族が祖先祭祀の役割を果たせなくなったとしても、死者の尊厳を守り、死者が安らかに眠ることのできるようなお墓の在り方が模索されてきております。

こういった状況の中で最近広がってきたのは、公営合葬墓という形態のお墓です。希望する人は誰でも、無料又は低額で共同のお墓に納骨できるというものです。

近年、大都会はいうに及ばず、地方都市にも合葬墓が増えており、東北においては、青森市、弘前市、秋田市、郡山市、いわき市にすでに設置されております。また、八戸市も令和4年3月から募集を開始していますし、令和6年度には十和田市も開設する予定となっております。いずれもその理由として、墓地価格の高騰、核家族化、少子化による跡継

ぎの減少、家意識の希薄化、多様な生き方等を掲げております。

盛岡市保健所においても、2020年に、「お墓に対する考え方や少子化等の社会情勢の変化に伴い、跡継ぎの心配のない、従来とは異なる形の墓地を求める声があることは認識しております。また、平成25年度に実施した市民意識調査においても、「お墓を継ぐ人のいないなどの問題に対応するために合葬式の共同墓や納骨堂の施設も必要」と思う人は73%でした。」との見解を私どもに表明されました。

自治体による霊園の新たな開発を市街地や住宅地に求めるのは、費用の点や周辺住民の反対等により困難となっており、そのため、近年は、人里離れた山の中に開設されることがほとんどとなっております。このように、墓地の確保ということは、自治体にとって非常に難しい問題となっております。その点、「合葬墓」はそれほど大きい土地は必要としません。

また費用面でも、秋田県秋田市のケース（2018年3月利用開始）を見てみると、「合葬墓」の建設費は約2,500万円となっておりますが、1,500人程度の利用者を集めれば「合葬墓」創設の費用は賄われるものと思われます。従って、自治体が墓地不足の解消を考えたとき、「合葬墓」の整備は非常に有効な選択肢であることは間違いないものと思われます。また、共同利用できる合葬式施設は、お墓を引き継ぐこと等に不安を感じる市民や価値観の多様等に対応する有効な手段であり、将来にわたって、豊かな市民生活を実現するための必要な施設とも思われます。

つきましては、貴議会におかれましては以上の趣旨をご理解いただき、下記の項目について採択してくださるよう請願いたします。

## 記

- 1 盛岡市営合葬墓を整備すること。